

PRIDE 誇れる自分 誇れる仲間 笑顔あふれる学校

部活動特集② 銚田北中の(顧問としての)部活動の思い出

昨日から水泳の県東地区総合体育大会が開催されていますが、いよいよ来週から本番という部活動が多いと思います。私は以前、銚田北中学校で8年間、主に野球部を顧問していましたが、総合体育大会では、苦い思い出も嬉しい思い出もあります。そんな思い出の中で、まずは苦い思い出からご紹介します。

その年に総体を迎えた学年は、新人戦で県大会3位になった学年でした。ピッチャーは、県内のいくつかの高校から声がかかるほどの好投手で、新人戦では、県大会に出場したチームですら力でねじ伏せていました。県大会でも、春に行われた銚田杯でも県新人戦で優勝した同じ学校に1点差で敗れ、この学校に勝てることができさえすれば、県の頂点に立てるのではないかと錯覚するほどでした。そんな中で迎えた県東地区大会、初戦は危なげなく勝ち抜き、迎えた準々決勝。相手は、それまで苦戦を強いられてきた学校で、油断はなかったと思うのですが、相手投手に抑えられ、相手にはワンチャンスをものにされ、そのままずると敗退。野球の総体は、準決勝まで勝ち進めば県選抜大会に、決勝まで進めば県大会に出場できるのですが、準々決勝敗退では「ジ・エンド」。彼らの中学校での野球はそこで終わってしまいました。思い起こせば油断はなかったものの、先を見過ぎていたという反省があります。目の前の試合に集中することの大切さを教えられた大会でした。次に嬉しい大会の思い出です。



嬉しい思い出を作ってくれたのは、苦い思い出の学年の次の学年の選手たちでした。彼らは、私が銚田北中に顧問した学年の中では、正直一番期待のもてない学年でした。まず、これといった投手がない。運動能力も高くない。いいところは、まじめなことと仲の良いことぐらいでした。当然、新人戦は、初戦敗退。しかもその相手は、次の試合ですぐに負けてしまうようなチームです。しかし、まじめっていうのはすごい力で、一冬を超えると、それまでとても勝てなかったチームにも少しずつ勝てるようになってきたではありませんか。そして迎えた県東地区総体。私は組み合わせを見てがく然としました。準々決勝で銚田南中と対戦する組み合わせだったからです。その年の銚田南中は、県新人戦ほか、それまでの県レベルの大会で必ず準決勝以上に進出する関東大会を狙えるチームでした。その組み合わせが決まってからどうしたら銚田南中に勝てるのかをキャプテン、副キャプテンと何度も話し合いました。結論は、相手の得意な攻撃を封じ込めるということでした。とにかく1番バッターと2番バッターの足が速く、この二人を自由にさせない作戦を立て、練習を繰り返しました。さらに、それまで投手でなかった左利きの選手を投手として起用することにしました。これが見事にはまり、南中に1-0で勝つことができました。南中に勝利し、自信をもった北中はその後も勝ち進み、準優勝で県大会出場を決めました。県大会では勝つことができませんでしたが、「まじめに勝るものはない」とそのとき、痛烈に思い知らされました。



先日の選手壮行会でもお話をさせていただきましたが、「最後まであきらめず全力で戦う」という北中プライドをもち、どんな強いチームにもひるむことなく、どんな弱いチームにも油断することなく、悔いのない戦いをしてくいてほしいと切に願っています。がんばれ、北中!

